



会報

東京都中学校長会

平成29年9月14日

第391号

発行 東京都中学校長会
会長 岩永 章
〒105 港区西新橋1-22-13
-0003 全日本中学校長会館202号
電話 03 (3504) 8705
FAX 03 (3504) 8706

〈巻頭言〉

学校における働き方改革

副会長 前島 正明
(多摩市立多摩中学校)

平成28年文部科学省が行った「教員の勤務実態調査」では、中学校教諭の1日平均勤務時間は平日11時間32分（平成18年調査に比べ32分増）、土日3時間22分（同1時間49分増）で、10年前と比べ、平日・土日ともに授業や授業準備に加え、部活動が増加している。また、1週間に60時間以上勤務していたのは中学校教諭58%で、厚生労働省が示している「過労死ライン」である1ヶ月80時間の超過勤務に相当し、長時間労働の実態が明らかになった。

文部科学省では中央教育審議会の特別部会で教員の長時間労働の解消に向けた対策を検討し、タイムカードを使った勤務時間の管理や事務作業を代行する専門スタッフの配置、長期休暇中の「学校閉庁日」の設定などを盛り込んだ緊急提言をまとめた。

東京都では「ワーク・ライフ・バランス」推進プランを策定し、オール都庁で働き方改革、長時間労働の是正に努めている。都教育委員会でも「公立小中学校教員の働き方改革推進会議」や「部活動検討委員会」を立ち上げ、区市町村教育委員会と連携し、長時間労働という働き方を見直し、教員が専門性を発揮できる環境の整備や部活動における負担の軽減などに取り組み始めた。

東京都中学校長会では、こうした教員の働き方改革が叫ばれる以前から「中学校における週当たりの講師算定基準（24時）を都立学校（全日制18時）並に見直す」「部活動のあり方と外部人材の活用促進に向けた支援を充実する」を要望事項として関係各所に働きかけてきた。

昨年10月、本校の新規採用教員が突然、病欠休暇をとり、年度末に志半ばで教職を去った。昨年度は他にも退職者が出た。

校長として、教員の心身の異変に気づき、適切

に対応できなかったことに重く責任を感じる一方で、当該教員や周りの教員に心と時間の余裕を生み出していたら違った結果になったのではないかという後悔も残っている。

こうした状況を踏まえ、本校では今年度、月に1回「ノー残業

デー」を設け、全教職員が定時退勤したり、毎週水曜日を「定時退勤推進日」とし、声を掛け合っ

て定時に退勤できるようにしている。また、時間割の工夫により、勤務時間内に学年会などの会議や教材研究等の時間を確保するようにした。

これから国や都、区市町村でも働き方改革が進められていくが、学校における働き方は学校や地域の実態に深く関わり、学校ごとに異なっている。公的な制度面での改革とは別に、校長がリーダーシップを発揮して各学校の実態に応じた働き方改革を進めていかななくてはならない。

今年度、岩永会長から東京都中学校長会としての主たる活動の一つとして「働き方改革」が掲げられ、地区代表者連絡会等で情報交換をしていく方向性が示された。校長の実践と英知の共有化による各教育現場での働き方改革が期待される。

教員の働き方を改革することは、教員に誇りややりがいを持たせ、健康で充実して働き続ける環境をつくるとともに、学校現場の次世代を担う人材にとっても魅力的な職場環境となり、ひいては将来の学校教育の発展・充実につながっていく。



7月 地区代表者連絡会 報告

■ 7月 地区代表者連絡会報告

日時 平成29年7月13日(木) 15時～17時

場所 新宿コズミックセンター 5階 研修室

1 会長あいさつ

○挨拶

＜夏季休業に向けて＞

- ・一人一人の生徒の状況・情報の共有を
- ・学校組織として生徒の健全育成に向けた丁寧な指導を
- ・面談等の有効活用と共に、養護教諭やスクールカウンセラー、関係諸機関との連携を
- ・多面的な生徒理解と必要に応じた個別指導を

＜今年度の活動の重点＞

- ・中学校教育70年記念第68回全日本中学校長会東京大会へ向けた準備について
- ・教育管理職候補者不足への対応について
- ・中学校教員の働き方改革について

○当面の課題

＜平成30年度東京都立高等学校入学者選抜＞

- ・他の道府県からの受験資格の緩和について
- ・平成28年度 日比谷高校への他道府県からの入学者は20名 次年度は更に増える見込み

2 行政説明

○「平成29年度東京都教育庁人事部の人事行政について」

東京都教育庁人事部主任管理主事

平田 英司 様

(1)管理職人材の確保について

- ・主幹教諭の現状
- ・管理職の必要数、申し込み状況

(2)服務事故防止に向けて

- ・「使命を全うする～教職員の服務に関するガイドライン～」冊子作成中 8月末配布予定

3 協議

(1)教育対策部

- ・平成30年度 中学校教育関係要望書案

(2)研究部

- ・平成29年度調査は例年の項目に加え「特別の教科 道徳」「Welcome to Tokyo」(教育対策部の報告書の内容も含む)
- ・8月1日～14日 Web回答実施

4 連絡・報告事項

(1)役員会より

- ・全日本中学校長会東京大会の地区ごとの係分担について
- ・東京都教育庁人事部、指導部との連絡会について

(2)各部・各委員会より

【総務部】

- ・管理職選考・昇任等に関する調査について

【会計部】

- ・これまで8費目に渡る集金を実施 未納地区は早急に納入を

【教育対策部】

- ・全日本中学校長会東京大会の記録を担当写真撮影の協力者募集
- ・各地区で平成30年度中学校教育関係要望書案の検討を

【研究部】

- ・全日本中学校長会東京大会の舞台を担当
- ・平成29年度 調査アンケートに協力を

【生徒指導部】

- ・9月22日(金)研修会予定
「スマートフォンに関わる生徒指導上の課題とその対応について」KDDIより講師招聘

【進路対策委員会】

- ・進路対策委員会日程変更
9月1日(金)→9月4日(月)
- ・平成30年度 東京都立高等学校入学者選抜検討委員会の主な検討内容について
- ・「都立高校に入学を希望するみなさんへ」の配布が遅れた経緯、理由について

【修学旅行対策委員会】

- ・修学旅行中のトラブルにおける東京都中学校長会修学旅行対策委員会としての対応について

【選挙管理委員会】

- ・平成29年度選挙管理委員会組織作りについて
- ・平成29年度校長会要覧への追加資料配布

関連団体

【都中学校体育連盟】

- ・都中体連事務局員(非常勤教員)の配置について平成31年度から配置不可となる

【都中学校教育研究会組織】

- ・組織一覧表の配布
- ・平成29年度 30年度 全国大会・関東ブロックの大会一覧の配布

5 事務局より

- ・平成30年度東京都中学校長会の「会費予算化」への取り組みのお願いについて
- ・中学校教育70年記念第68回全日本中学校長会東京大会「運営要項」7月20日配布予定
- ・「会報第390号」の配布について
- ・平成30年度 総会及び研究大会の予定について (平成29年7月13日現在)
定期総会・研究発表会 4月26日
全日本中学校長会総会 5月24日・25日
関ブロ 栃木大会 6月14日・15日
全日中 鳥取大会 10月24日・25日

各部・委員会報告

平成29年度 教育対策部 活動概要

教育対策部長 千葉 正法
(多摩市立青陵中学校長)

1 活動の重点

- (1) 東京都中学校長会の「運営規程」に示された内容について、調査・研究・要望活動を行う。
- (2) 昨年度の調査結果を踏まえ、東京都教育委員会に提出する「平成30年度中学校教育関係要望書」を作成する。
- (3) 研究部の研究内容と重複しないよう、予算・施設関係と人事関係を重点に調査を行う。
- (4) 「全日中東京大会」において「編集部」としての役割を担う。

2 活動内容

- (1) 「平成30年度中学校教育関係要望書」の作成及び要望活動
- (2) 「平成31年度の要望のための調査報告書」の作成と発表
- (3) 「全日中東京大会」への準備
- (4) 上記以外に会長等からの指示に基づき、必要とする調査・要望活動を行う

3 部会予定

- 5月11日(木)第1回部会 年間活動内容、役割分担の確認
- 6月16日(金)第2回部会 「教育関係要望書」原案作成
- 6月22日(木)第3回部会 「教育関係要望書」の検討
- 7月21日(金)第4回部会 「教育関係要望書」の校正・確認
- 8月～9月 小学校と調整後、都教育庁総務部・人事部・指導部、都議会各会派への説明実施
- 9月22日(金)「調査内容」の検討と原案作成
- 10月26日(木)「調査内容」の修正
- 11月17日(金)「調査内容」の確定と決定
- 12月8日(金)第9回部会 予備日
- 2月2日(金)第10回部会 調査結果の分析
- 3月28日(水)第11回部会 プレゼンテーション資料の作成・発表原稿作成
- 4月上旬 第12回部会 発表準備・リハーサル
- 4月26日(木)第13回部会 定期総会での報告

平成29年度 研究部 活動概要

研究部長 新村 紀昭
(練馬区立開進第四中学校長)

1 活動の重点

- (1) 東京都中学校長会の活動方針を踏まえ、東京都の中学校教育の充実と活性化に資する研究を展開し、発表を通してその成果を各地区の校長会に提供する。
- (2) 「全日中東京大会」において、全日中との連携・調整を図りながら研究大会を円滑に実施する。

2 活動内容

(1) 研究方針

東京都中学校長会の活動方針を踏まえて、中学校教育の課題について全都の実態を把握するとともに、課題を精選し、多様な視点から研究活動を行うことで課題解決の方途を提示する。

(2) 研究内容

『教育課程及び学校経営の実施・改善における課題と対応に関すること』

主題決定にあたっては、校長会活動方針との関連を明確にするとともに、教育対策部との重複を避け、学校経営および教育課程、今日的な教育課題を中心に設定する。

- ・今年度の教育課程編成において、重視している基本的な考え方や教育内容、編成上の課題、外国語教育、道徳教育の実施状況
- ・昨年度より全校実施となったオリンピック・パラリンピック教育、基礎体力向上策「アクティブプラン to 2020」の取組状況
- ・中央教育審議会の「論点整理」等で取り上げられた「アクティブ・ラーニング」「カリキュラム・マネジメント」についての取組状況
- ・その他、今日的な教育課題についての調査

3 研究方法

- ・過去の研究成果の分析に基づく課題の精選
- ・先行研究、事例等の情報収集
- ・全会員対象のアンケート調査研究
- ・関連する施策等の状況把握
- ・研究結果の分析と課題解決に向けた提言のまとめ

4 研究発表

研究紀要による誌上発表(1月予定)

5 研究計画

省略

「保護者・地域との連携を基盤とし、 市民力を生かした教育活動の推進」

立川市立立川第三中学校長 山口 真一

1 はじめに

立川市は大型商業施設等が集積する業務商業都市として発展してきています。一方、都市化の進展に伴い、地域コミュニティの希薄化が懸念されています。そこで、「まちを知り、まちを愛し、まちに貢献する」ことが重要であると考え、「立川市民科」を教育課程に位置付けて、市内小中学校全体で取り組んでいます。

本校では、立川市民科として取り組んでいる防災教育とともに、立川市の教育の重点課題でもある「学力の向上」「体力の向上」「特別支援教育の充実」を加え、保護者や地域との連携による教育活動を展開しています。家庭や地域との連携を深める中で生徒の学習や活動がより広く、より深くなっていることを実感しています。生徒が様々な体験活動を通して、自ら判断・行動し、生徒一人一人に次代の地域を担う意欲や責任感などが育つことを期待しています。

2 実践紹介

(1) 防災教育

首都直下型地震等の大災害を想定して地域住民や事業所との連携により、防災教育の充実を目指しています。

① 地域防災訓練への参加

校区の小中学校児童と共に1年生全員が訓練に参加し、地域の方と一緒にバケツリレー、放水・消火訓練、起震車等を体験し、仮設トイレ設営を披露しました。

② 地域安全防災マップ作り

2年生では、学区内の危険な場所を調べ、地域の方々のご協力を得て、防災マップを作成

しました。



③ 防災教育プログラム

災害時に現場や避難所で重要な役割を果たす中学生には、きちんとした防災教育が必要であると考え、1年生では、日本赤十字社の青少年赤十字防災教育プログラムを活用し、ビデオ学習や実習に取り組みました。

④ 普通救命講習

3年生では、3年間のまとめとして普通救命講習を受講し、心肺蘇生の方法やAEDの使い方学びました。

(2) 学力向上・キャリア教育

本校には、全校意見発表会、マナー川柳、生き方・職業講話、職場体験学習、学力補充教室など、地域・保護者と連携した取り組みが数多くあります。

① 学力補充学習

近隣の大学と連携し、長期休業中に学習ボランティアを活用した補充教室を開催しています。

② 模擬選挙の実施

立川青年会議所のご協力のもと、「未来の人材を育成する」教育プログラムとして、生徒た



ちにも政治に参加することへの興味・関心を少しでも高められないかと「模擬選挙」を行いました。

(3) 体力向上

地域団体との連携による体力向上を目指しました。隣接している東京女子体育大学に協力いただき、継続的な取り組みをしています。

① 三中体操作り

東京女子体育大学教授の指導を受けながら、準備運動や体幹を鍛えるためのオリジナルな運動を創作しました。体操を大きく4種類に分類し、各クラスで分担して考え、最後に1つの体操として完成させました。体育大会や授業で日常的に行っています。



② 部活動指導

バレー、バスケット、卓球等複数の部活動において、体育大学生のボランティアによる指導を行っています。生徒の習熟度に応じて、個に応じた丁寧な指導ができるため、安全面や技術向上に役立っています。年齢も近いため効果的な指導になっています。

(4) 特別支援教育の充実

市内中学校には3カ所の情緒障害等通級指導学級があり、本校にも「羽衣学級」が設置されています。学級では課題に応じて、「コミュニケーション」や「社会性」などの学習を行っています。

① レストラン活動

特色ある活動として年3回実施しています。保護者や地域の方をお客様として招待し、評価や励ましをいただくことで、大きな達成感と自己肯定感を実感し、社会参加への意欲を向上させています。



② 特別支援教育についての理解啓発

保護者だけでなく、地位の青少年育成団体やPTA役員会などでも理解・支援をいただくために講演活動等の取り組みを続けています。

3 成果と課題

生徒が主体的に活動する場面を設定することにより積極性が向上し、地域社会の一員であることを自覚し、様々な場面で自ら判断し行動できるようになりました。今後も地域と連携した活動を継続することが課題です。今年度より学校地域支援本部を立ち上げ、学校支援コーディネーターを選出しました。この組織を軌道に乗せ、より充実した連携活動を目指します。

三つの視点で

葛飾区立小松中学校長 熊谷 晴弘

1 本校について

葛飾区立小松中学校は葛飾区の最南、江戸川区との区境にあり、最寄りの駅はJR新小岩駅となる。現在、11学級全校生徒343名で、校舎建て替えに入っている。9月から校庭に建設された仮設校舎で学校生活を送り、平成31年度の夏には同じ敷地内の新校舎に戻る予定である。地域は古い街であり、地元の名士に本校の卒業生も多く協力的である反面、近年外国籍の生徒が増加しており、全校生徒の1割弱を占める状況にあり、特別な対応が求められる場面もある。

2 三つの視点から

私の学校経営の基本は三者による三つの視点からなっている。

一つ目は当たり前のことであるが、学校の経営者として人材、施設、予算等を管理し、有効活用することにより生徒、保護者に還元していく立場の視点である。

二つ目は指導者の視点である。自分が教員であったら、生徒にどのような指導をするかという見方を常に意識している。生活指導上の課題に対して、自分が担任であればどのような言葉をかけて指導するか、自分が授業を行っている教員の立場であるならば、ここでどのような切り返しをし、どのように授業を展開していくかという視点である。この視点は教員と話をする際にとっても大切にしてい、そのために常に自分も新しいことを意識しながら生徒と接することができるよう心掛けている。

三つ目は保護者の視点である。自分が生徒の保護者であったら、どのように受け止め、

どのように感じ、どのように判断するかという視点である。実はここに大きなこだわりがある。個人的な話にはなるが、管理職選考に合格し地教委の指導主事に任用されたころ、長男が区立幼稚園に通っていた。私の勤務区は区立幼稚園が多くある区であったため、自分の子供の成長と、指導主事として幼稚園に通う自分とがリアルタイムで重なった。その後、副校長を経て校長昇任は葛飾区立の小学校であった。小学校長として過ごした3年間はこれもまた自分の子供が公立の小学校へ通っていたため、これも重なることが多かった。つまり、指導主事、管理職として仕事をしていたのと同時に、自分の子供が同じ校種の学校へ通っている保護者でもあった。

その後、中学校への配置後現在2校目、校長職も3校、8年目となった今でも自分が保護者の視点をもつことは忘れてはいない。実際に次男が今中学校へ通っているということもあり、私の学校で行っている指導が保護者にどのように伝わり、どのように受け取られ、理解してもらっているのかは常に気にかけている。これは保護者に迎合しているということではなく、保護者の思いや立場を理解して対応する必要があるということである。私たちの行っている教育活動を受け止めているのは生徒であり、保護者であるということは忘れてはならないと思っている。

3 おわりに

最後は「すべては子供のため」になると思う。今後も三つの視点を忘れずに、「まず子供ありき」を学校経営の柱に置き、自分も常に勉強しながら職責を果たしていきたい。

八丈島で出会った一人の生徒との思い出

羽村市立羽村第三中学校長 田村 文雄

私は来年3月で退職を迎え、36年の教員生活に終わりを告げることになりました。これまでに勤務した学校数は全部で10校になります。どの学校にも思い出に残る出来事が多々ありました。

中でも新規採用教員として臨んだ、八丈島で出会った生徒のことが、今でも鮮明に、色濃く残っています。

その頃、島には5つの小学校と4つの中学校がありました。その中で私が赴任した中学校は全校生徒が約80名、校舎は木造平屋建てで、校庭の周りには大きな椰子の木が植えてあり、校舎の後ろには三原山が控え、前には太平洋が見渡せる、素晴らしい大自然に包まれていた学校でした。

この学校で、私は車椅子の1年生の男子K君と出会い、この生徒の担任になりました。

K君の病気は「進行性筋ジストロフィー症」という筋肉が衰えていく難病で、小学校の頃は何とか歩けたようでしたが、中学校では車椅子の生活でした。効果的な治療法は無く、筋肉の衰えを少しでも遅らせることを目標に学校生活を送っていました。進行を遅らせるためには気力が大事で、そのためには毎日学校に来て、勉強をし、行事に参加し、友達と触れ合うことが効果的であることを医師から言われていました。

K君は勉強が好きで、常に一生懸命に学習し、ノートを取るのが大変な中、どの教科でもテストでは良い点数を取っていました。

本人の頑張りにも頭が下がりましたが、K君を支えている両親の姿勢がとても素晴らしかったです。K君は肉体的にハンデキャップがあることで、行事等の参加はどうしても制

限されてしまいますが、「可能な範囲で、授業や学校行事に参加させたい。」との強い要望で、私も心を動かされ、安全面を考え、ぎりぎり可能な範囲で参加をさせていきました。

しかし、3年生の修学旅行では、たくさんの心配な点があり、実行することに悩みました。心配だった点をいくつか上げてみると、宿泊旅行のため、かなり疲れるのではないかと、船旅に耐えられるのか、車椅子でどの程度回ることができるのか、通常学級との交流はどうすればよいのか等たくさんありました。私は他の先生からのアドバイスを受けながら、上記の問題を一つずつ解決し、無事に修学旅行を実行することができました。旅行中、多少大変なこともありましたが、K君の喜ぶ姿を見て、実行して本当に良かったと思っています。

その後、K君は八丈高校に入学し、高校の先生や多くの友達のを借りて無事に卒業することができました。

私が新規採用の教員だったこともあり、初めて体験することや分からないことも多く、満足のいく指導はできませんでしたが、それでも私を信じてついて来てくれたことには本当に感謝しています。振り返ってみると、私が教えたことよりもK君やK君の両親から学んだことの方が多かったと思っています。そのことは、その後の教員生活の礎になり、この経験があったからこそ、教員を長く続けることができました。

残念ながらK君は成人を過ぎた頃に帰らぬ人となってしまいましたが、私にとって今でも忘れられない生徒です。

1 東大和市の概要

東大和市は、東京都の中央部の北側に位置している。北には、都民の水がめであり、市のシンボルである多摩湖（村山貯水池）を抱える緑豊かな狭山丘陵が広がり、美しい自然に囲まれている。多摩モノレールの開通にともない南北のアクセスも良く、人口は増加傾向にあり約8万5千人が生活する住宅都市である。

市内に中学校は5校、小学校は10校あり、各校それぞれ、学校や地域の特色を生かした教育活動を展開している。

2 東大和市の教育

市長による冒頭のスローガンをもとに東大和市教育委員会は、子どもたちが、東大和市民であることに誇りを持ち、知性、感性、道徳心や体力などの生きる力を育み、人間性豊かに成長することを願い、

- 互いの人権を尊重し、思いやりと規範意識のある人間
- 社会の一員として、社会に貢献しようとする人間
- 自ら学び考え行動する、個性と創造力豊かな人間

の育成に向けた教育を重視している。また、学校教育及び社会教育を充実し、だれもが生涯を通じて、主体的に学び、支え合うことができる社会の実現を図る。そして、教育は、家庭、学校及び地域のそれぞれが責任を果たし、連携して行われなければならないものであるとの認識に立って、全ての市民が教育に参加することを目指している。

東大和市立中学校長会では、日頃より顔の見える連携を深めるとともに、小学校と合同で実

施する校長定例会では、教育委員会との縦の連携を深め、報告や情報交換のほかに、課題解決のための各校の取組を意見交換している。

3 東大和市の教育基本方針と教育施策

東大和市教育目標を実現するために、次の4つの基本方針に基づき、それぞれの教育施策を設定している。

【基本方針1】「人権尊重の精神」と

「社会貢献の精神」の育成

【基本方針2】「豊かな個性」と

「創造力」の伸長

【基本方針3】「総合的な教育力」と

「文化・スポーツ」の充実

【基本方針4】「市民の教育参加」と

「学校経営の改革」の推進

特に市の重要施策として、「学力向上」、「小中一貫教育の推進」をあげた。

○学力向上

- ・都学力ステップアップ推進地域指定事業の活用（ベーシックドリルの活用、理数教科における教員の指導力向上、補習教室の実施）
- ・東大和市共通プログラムの活用
- ・少人数学習指導員、協力指導員TT、学校図書館指導員の配置
- ・学力向上プロジェクト委員会 等

○小中一貫教育の推進

（小中9年間を見通した取組、中学校グループごとの小中交流など）

- ・東大和市共通プログラムの活用
- ・学力向上のための取組
- ・教員の相互理解
- ・児童、生徒交流 等